

JEG ニュースレター 140号

www.jegschweiz.com

2014年1月29日発行

ちいさな証

生まれ育った茨城の田舎、幼き頃、耳にした蛙の大合唱。マイヤー新牧師の証です。P2



新年礼拝/牧師就任式

フランクフルトから田辺先生をお迎えしての新年礼拝は、同時に牧師就任式も兼ねました。P3



聖地旅行

スイスJEG20周年記念事業の一つ、秋の「聖地旅行」のプログラムが発表されました。



お泊まり会

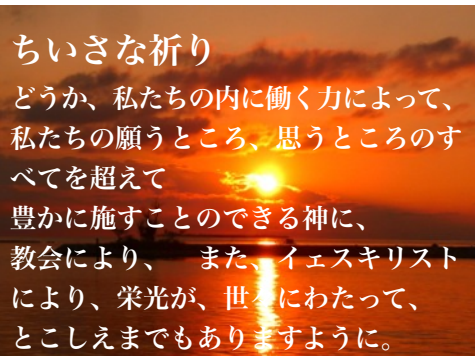
スイスJEG Youthの今年初めての「お泊まり会」をフォトストーリーにして添付しました。



ちいさな祈り

どうか、私たちの内に働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを超えて

豊かに施すことのできる神に、教会により、また、イエスキリストにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでもありますように。



”あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。”

ピリピ人への手紙 1章6節 スイスJEG2014年の標語聖句

牧 師 就 任

マイヤー・マルチン牧師は、深いゆかりのある田辺正隆牧師（フランクフルト日本語福音キリスト教会）の司式により、スイスJEGの牧師として無事、就任式が執り行われました。田辺牧師はマイヤー牧師のご尊父よりドイツ語と聖書の薫陶を受けられ、吊りズボン姿で走り回っておられた幼きマイヤー牧師をご存知だということで、まるで父が子に就任式を授けるような感慨深いものとなりました。



ちいさな証

私の目を開いてください

(1月12日の牧師就任式での証)

マイヤー・マルチン

スイス日本語福音キリスト教会牧師



Herr öffne mir die Augen, dass ich schaue
die Wunder in deinem Gesetz.
Psalm 119, 18

Zu meiner Dienststeinsetzung möchte ich
gern anhand dieses Psalmwortes
bezeugen, dass es nur diese geöffneten
Augen sein können, die mich als Pastor

befähigen werden, etwas weiter zu sagen!Ich

wurde

1960 in Japan geboren und wuchs in der Ibaraki Präfektur
auf. Damals waren meine Eltern als Missionare in einem sehr
ländlichen Gebiet mit vielen Reisfeldern und Bauerngehöften
tätig. Aus der Zeit, als ich etwa drei Jahre alt war, habe ich
eine Erinnerung, wie ich einmal am Rand eines Reisfeldes
stand und den quakenden Fröschen zuhörte. Ich glaube, ich
werde mein Leben lang diesen Chor von vielen
Froschstimmen nicht vergessen.

Ich erinnere mich, wie ich einen Stein
aufhob und ihn in das Reisfeld warf. Mit
einem Schlag verstummten die Stimmen
und es wurde sehr still. Dann wartete ich
für einige Augenblicke und erlebte etwas
Interessantes. Nach einer Weile erhob
irgendwo im Reisfeld ein einzelner mutiger
Frosch als erster seine Stimme
wieder. Und nach und nach setzten all die
anderen tausende von Fröschen auch
wieder ein.

Das wurde für mich zu einem Beispiel.
Jetzt, wo ich Pastor der Japanischen Evangelischen
Gemeinde werden soll, bin ich vielleicht auch manchmal wie
ein einzelner Frosch, der seine Stimme erhebt und andere
aus unserer Gemeinde mitzieht, auch ihre Stimme zur Ehre
Gottes und zur Rettung von Menschen zu erheben.

Es ist selbstverständlich, dass einem neuen Pastor auch
Erwartungen entgegengebracht werden. An der Stelle möchte
aber demütig darum bitten, nicht so sehr Erwartungen an den
Pastor als vielmehr direkt an den Herrn Jesus Christus zu
stellen. Betonen möchte ich den Schwerpunkt meines
Auftrags als Pastor.

An erster Stelle soll die Verkündigung des Wortes Gottes
stehen. Deshalb ist Psalm 119,18 für mich eine sehr wichtige
Bitte. Gern möchte ich allen zusagen, dass ich für jeden
einzelnen beten und gut vorbereitete, verständliche Predigten
halten möchte. Bitte betet mit, dass unsere Gemeinde etwas
sein kann zur Ehre Gottes und dass noch viele Menschen
durch sie zum Herrn geführt werden.

私の目を開いてください。私が、あなたのみおしえにある奇しいこ
とに目を留めるようにしてください。
詩篇119章18節

私は牧師として、このみ言葉にもあるように、「霊の目が開いて
いなければ、何を語れるだろうか?」と心に留めつつ、着任に当たっ
ての証しをさせていただきます。

1960年、私は日本で生まれ、茨城県で育ちました。その当時、
両親は、田舎の農村地方で宣教の奉仕に励んでいました。私の3歳
ころの思い出の一つは、田植えの時期に蛙の鳴き声を聞きながら、
それをとても面白く感じていたことです。まるで合唱しているよう
に、たくさん蛙が鳴くあの声は、一生忘れられないでしょう。

ある日、私は石を拾って、田んぼに投げ込んだ記憶があります。
すると突然、蛙の鳴き声が止み、まったく静かになってしまいまし
た。しかし、しばらく待っていると、面白いこ
とが起こりました。一匹の蛙が勇気を出して再
び鳴き始めたのです。その泣き声に倣って、他
の何千匹の蛙たちも次から次へと鳴き出しまし
た。

この思い出から、私は次のようなヒントを得
たのです。今、スイス日本語福音キリスト教会
の牧師として就任し、私も勇気を持って教会に
集われる様々な方々に良い影響を与え、主なる
神の栄光をほめたたえる福音のみ言葉の声をあげ
ることにより、皆様と共に神の栄光と人の救いのために証の声を
あげられるようになれば幸いであると思っております。

着任してくる新しい牧師には、いろいろな期待をされるのが当然
のことですが、私が慎んでお願いしたいのは、牧師に期待するより
も、より多く、主イエス・キリストに直接期待していただきたいこ
とです。特に強調しておきたいことは、牧師としての使命の重要性
です。

その第一として、神のみ言葉の取り次ぎが挙げられます。ですか
ら、詩篇119章18節の言わんとすることは、皆様に対しての非
常に大切な私の願いでもあります。皆様お一人お一人のために祈
ることに合わせ、十分な準備をした理解しやすい説教を目指して
いく所存でありますので、私たちの教会全体が、主に栄光を帰するもの
であり、一人でも多くの方々を導き、共に祈り下さいますようお
願い申し上げます。





1、スイスJEGの新年礼拝は、1月12日(日)フランクフルト日本語福音キリスト教会から田辺正隆牧師をお迎えして持たれました。田辺牧師は、スイスJEGが新牧師を迎えての新しい年のスタートに相応しい「福音宣教の使命」をテーマに、パウロが一度も訪れたことのないローマ人に宛てた渾身の手紙のエッセンスというべきみ言葉(ローマ16:25-27)から力強いメッセージをいただきました。(通訳はマイヤー牧師)なお、録音に不備があり、スイスJEGの説教専門サイトにはアップロード出来ませんでしたので、このニュースレターに原稿を添付させていただきます。

また、新年礼拝の中で、昨年11月1日からスイスJEGの後任牧師として牧会の働きを始められたマイヤー・マルチン牧師の就任式が、田辺正隆牧師によって執り行われました。この就任式は、11月24日のスイスJEG創立20周年記念礼拝の中で行われる予定でしたが、田辺みや子先生の手術のため延期されたものです。この日、田辺みや子先生はお元気な姿を見せて下さり、会場は喜びで満たされました。就任式の様子は、ビデオ(4分)でもご覧頂けます。https://www.youtube.com/watch?v=PSLeUAszE-E



2、今年最後のスイスJEG礼拝を、12月29日(日)に、例年より多い60名の兄弟姉妹とともに、主に捧げる幸いを得ました。激動の年でもあったスイスJEGの2013年を導き、祝福して下さった主に感謝を捧げるとともに、旧年を静かに振り返る時が与えられました。また、シュトゥットガルト日本語教会からスイスで年末を過ごされた増谷伝道師ご家族もお迎えし、楽しく豊かな交わりを持ってた事も感謝でした。

愛餐会のなかで、松林兄製作のDVD“スイスJEG2013年の歩み”が上映されました。このビデオ(18分47)は次のURLをクリックしてご覧頂けます。http://www.youtube.com/watch?v=RhUdClirUds



新年礼拝後の愛餐会スナップ

3、第二回スイスJEG婦人会が、初回と同じ、中央スイス・ベッキスのフォンプラント兄弟宅で5人の出席者を得て開かれました。第一テモテからテキストを読みつつ、午後一時から六時まで貴重な意見交換と交わりの時を持つ幸いを得ました。

この婦人会は、クリスチャンの婦人を対象に、年に3、4度開かれる予定です。興味がおありの方は、フォンプラント姉までご連絡ください。workshopswiss@bluewin.ch

4、1月11日から12日にかけて、フォルケッツヴィルのトムセン家にて、矢尾板拓也君の送別会をかねたTeens&Youthの”お泊まり会”が開かれ、愉快かつ有意義な若者の交流が持たれました。その様子をフォトストーリーにしましたので、このニュースレターに添付させていただきます。スイスJEGは、新しい年も若者を支援し、聖書の学びと交流を促進していきたいと願っています。



5、スイスJEG創立20周年記念事業のひとつ、秋の”聖地旅行”のスケジュールが発表されました。この聖地旅行は今年のスイスJEGの修養会を兼ね、10月12日から19日まで、イスラエルにお詳しいマイヤー牧師とともに、聖書を深く学び、イエス様の足跡を辿り、聖書の世界を肌で知る貴重な機会となります。多くの兄弟姉妹の参加を願っています。参加を希望される方は、添付の申込書でフォンプラント姉まで<workshopswiss@bluewin.ch>2月9日までに送り下さい。

6、4年半無牧であったデュッセルドルフ日本語キリスト教会が、1月16日、新任牧師を迎えられました。役員会より届いたメールを転載いたします。デュッセルドルフ教会の新たな歩みが祝福され、主の御心に叶った教会形成がなされますようお祈りします。

主にあつて敬愛する皆様へ

私たちの教会、デュッセルドルフ日本語キリスト教会は、2009年8月から無牧の教会として歩んでいましたが、今年1月16日から新しい先生、ゲアハルト・フーアマン(Gerhard Fuhrmann)先生をお迎えして、新たな歩みを始めます。

先生は、ジャーマンアライアンスミッションの宣教師として、1972年に日本に渡り、おもに近畿地方で宣教をされて、昨年7月に日本で宣教のお働きを終え、ドイツにご帰国されました。今年1月にジャーマンアライアンスミッションを定年退職され、私たちの教会の牧会を担って下さることになりました。

私たちの教会にとって、この4年半の無牧は、初めての経験でしたが、皆様のお祈りと温かいご支援、そして恵み豊かな神様の導きによって、すべてが守られ祝されました。心から感謝致します。フーアマン先生をお迎えして、デュッセルドルフの地で、そして欧州の地で、宣教の為に、そして神様のご栄光を表す教会として、これからも主に仕えていきたいと願っています。

遅ればせながら、皆様にとりまして、今年一年、恵み豊かな、そして祝福に溢れる年となりますよう、お祈りしています。

7、オーニング宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガとNL、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、夜越山祈りの家月報、アジア宣教フォーラム、オリーブ山便り(イスラエルよりの最新情報)が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。



日出ずる国から

これからの教会

東京お茶の水はDRCnetの
松下瑞子姉から



スイス日本語福音教会のみなさんへ

お送り戴いたスイスJEGニュースレター 139号を頂き目を通しました。有り難うございます。また、20周年記念誌を送って頂きながら、

感謝の言葉をお書きする時が無いまま過ぎてしまった事に気がつき、急いでお礼を申し上げます。

20年間の歩みを振り返りつつ、過去に留まらず、将来に向けても希望を感じさせる記念号だと思いました。私に関わったのは、考えてみると、初期の頃だったのだ、という事も改めて認識しました。20年の間に、多くの方々が関係し、教会が発展していき、ある意味で言う海外の日本語集会の中では、1つのモデルになっているのではないかと思っています。

残る方、移動する方、連絡が途絶える方、色々な方がいる中で、連絡を取り続けるのは大変な事です。それも、スイス教会の大きな努力があっての事ですので、主がそのような方を備えて下さった事を感謝します。松林兄らの執拗な努力が無かったらば、私等は、そのまま放ほうってしまったことでしょう。教会と言えば別帳会員の様な者になっていることでしょう。

これからの20年はどうなることでしょうか。日本国内で洗礼後教会に残る人の数は5人に1人、海外で神様を受入れて帰国し教会に連なる人の数は、どの位かはっきり分かりませんが、同じ様なものかも知れませんが、その意味で、スイスの日本語教会で養われて帰国し、主の為に働く方々がいる事は幸いです。これからも増え続けて行くように、とお祈りします。

今年は母が夏に亡くなって毎年過ごすスイスでの休暇がありませんでした。来年はウー

スターの教会を訪ねることができるように、と思っています。

又、今年はスイスも日本も寒い冬の様です。皆様もお体に気をつけて、祝福された新年をお迎え下さい。

記念誌を手にして

大阪府は豊中市の
村上公子姉から



スイスの教会20年誌をお送りくださいまして誠にありがとうございました。

毛筆で宛名を書いて下さり恐れ多く頂戴いたしました。全頁に記念誌製作に関わった皆様方の熱

い思いが詰まっていて、写真の人々に対する父や肉親のような愛が感じられました。

巻末の編集後記に主人のことが書かれていて「このように思っていて下さったのか」と涙がこぼれました。

スイス教会の皆様への篤い思いが今は全ヨーロッパのキリスト者を兄弟とし家族としたのだと！それは神様の思いの実現でしたね。

20年間のスイスJEGの皆様への尊いお働きを本当に有難うございました。

私は毎年スイスから帰るとエネルギーは教会のほうへ使います。日本の大都會の沿線には各駅に様々な教会があり、高齢化が進んでいる今日、次世代に信仰を受け渡すべく懸命に知恵を絞って様々な試みをしています。

私の教会では月2回伝道のためのプログラム「基礎の学び」と題して牧師がテキストを用意し、学びの後ワーカーさんがフルコースの食事を用意し、ヘルパーは求道者の方々と談笑（主に傾聴）したりして交わりを深めます。求道者に対して倍の人数の者が関わります。

去年9月から始まったこのコースで今のところ3人の方がイースターに洗礼を受けられるようです。毎週の礼拝、水曜祈祷会、各委員会、奏楽の準備、聖歌隊の練習、などで1週間はとても早くすぎます。

後期高齢者になった者も80までは現役として用いられ、奉仕をする事は生甲斐であり、奉仕の出来るように心と体を整えてくださる

神様に感謝しながら楽しく皆でやっています。毎週言葉の栄養を頂ける教会のある事はなんと有り難いことでしょう！

スイスのウースターの教会も新しい歩みを、主が大いなるみ手をもって導いて下さる事を確信しお祈りしています。



ヨーロッパの日本語
集会／教会から

若者の交わりを活発に
ミュンヘン日本語キリスト教会は
安藤里佳子伝道師から



先日はスイス日本語福音キリスト教会の20周年記念誌をお送り頂き、大変感謝でした。生ける神様が御教会を導き祝福し、豊かに用いていらっしゃる事が伝わって来て、本当に恵み

が満載されていると感じました。

特にティーンズの証しとユースお泊り会のページが印象に残りました。ティーンズの皆さんが神様と教会を愛して、楽しんで集っていることが分かり、とても励まされました。なかなか一つの教会でティーンズの集まりを持つことは難しいと思いますが、そのモデルになっていると感じました。

ヨーロッパキリスト者の集いで以前中高生の奉仕を何年かさせて頂きましたが、一つの悩みは高校を卒業すると集いにも来なくなってしまう若者が多く、神様からも離れてしまう場合もあると思いました。同年代の交わりが彼らの信仰にとっていかに大切なものかをひしひしと感じました。

スイス日本語福音キリスト教会で持たれている様な若者の交わり（特にティーンから25歳以下）がヨーロッパ全体で活発になりますように祈って行きたいと思います。そして若者を支える教会のお働きが如何に重要（かつ困難も大きいでしょう）かを思い、同じように奮闘する諸教会への励ましとなりますこと

を感謝しています。

記念誌の編集のご労は気の遠くなるようなものではなかったかと思ひ、主の豊かな祝福をお祈りいたします。新しい年も恵みが十分にありますように。

み言葉に埋まった人生
ドイツはダルムシュタットの
田辺みや子師から



思いがけずスイスの皆さんとお会いすることができました。出掛ける直前まで迷い祈り続けました。退院後初めての外出がスイスですから！でも、主が良しとして下さる時、不

可能も可能とされるのですね。送迎の労をお取り下さった今村兄姉、そして、マイヤー師ご夫妻のご労に唯只感謝の想いで一杯です。

「生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。」(ピリピ 1:20)

どんなに多くの方々がこんな私のために祈って下さったことでしょうか。その祈りを主は聴かれたことも確かです。ただ主のみ名を崇めます。2012年の7月に続いて2013年の11月の二回にわたる手術は主のみ手から出たことでした。

78年間の私の生涯が、この主から出て、この主に帰せられこと(詩篇139)を覚えた時に私は不思議な平安と喜びに満たされ、次々に賛美が口から湧き出てきたのです。



スイス教会新年礼拝の後で、クンツ師と談話

祈りの園生を 朝疾くわれ歩み 御子イエスと物語る幸をば得たり。わが主はわれと歩み囁き給いぬ 「永久までも汝は我がものぞ」と！主イエスを喜ぶことは

あなたの力です！ 感謝を捧げることはあなたの力です！ 朝に夕に永久までも王なる主を讃えましょう。主イエスを求めることこそ、主イエスを愛することこそ、主イエスに仕えることこそ 全てに勝るわが喜び！絶えずイエスを求め、愛し、仕えて行こう！♪

私のここまでの生涯の全ては、主のお言葉に埋めつくされているのを発見出来たのも大きな喜びでした。

「キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、義と聖めと、贖いとになりました。」(1コリント 1:30)

私のために祈りを捧げて下さった全ての方々から心から感謝して。



下山由紀子姉から

去年、バルセロナでは二人の方が受洗されるという大きな恵みをいただきましたが、今年は年初からもうひとりが受洗する予定で、この月報を皆さんが読まれる頃には新しい家族が生まれているはずです。ハレルヤ。

去年受洗されたSさんはお母様がクリスマスチャン。ずっと教会学校で育ちましたが、思慮深い性格が真っ直ぐに信仰を受け入れる道に転がる石となり、何度か受洗準備をしたものの牧師から待たがかったそうでした。

その後紆余曲折を経てバルセロナに生まれ、すぐこの集會に参加していただきました。とても素敵な女性で、じきにイタリア人の彼と結婚し、幸せそうだったところに彼が失業。その頃から集會に来なくなってしまったのです。

私にできることはあるか、何か傷つけるようなことをしたのか、問い合わせの電話やメールも送りましたが「今度行きますね」と言っは来ない。それではと彼女が良いという日を選んで「この日は実は都合悪いので行きません」と後出しじゃんけんのように断られる。

その後はメールにもお便りにも梨のつぶての数年が過ぎ、人には時として神から離れることが良い結果にたどり着くことがあるとは理解しながらも、完全に疎遠になってしまいました。

しかし主は時が満ちた時、Sさんのお母様と長年の信仰の友であるMさんご夫妻をこの地に送ってくださったのです。Mさんは渡航前に集會のHPから私にメー



ルをくださり、バルセロナ到着後はさっそくSさんに会い、その後私とも会っていただきました。「Sさん、ずいぶん孤独に悩んでいる様子で、聖書の事もあなたの事も一言も話さなかったのよ。」という報告は胸の痛む話でした。「でも寂しいならあなたに連絡するように伝えておいたわ」と言って帰国されたMさんの言葉に期待して祈っていると、じきに勇気をふりしぼったSさんから電話があり「会いたい」と言っくれたのです。

飛ぶように彼女の家近くへ行き、一緒に食事をしました。その時のSさんの話は不幸に不幸が重なって彼女自身が精神を病んでいるようにも見えました。2012年の秋のことです。クリスマス集會にお誘いしたところいらしてくださり、私が所属する教会のクリスマス礼拝にも参列して「洗礼を受けたい」と・・・。

突然のことでびっくりでしたが、「お母様のいらっしゃる所で洗礼を受けたら？」ともお話しし、昨年夏に一時帰国をして受洗されました。今は以前と同じとっても素敵な女性に返り咲き、お仕事も彼女にぴったりのものが与えられ、ご主人様の事業も順調で喜びに満たされています。

日本にお母様、妹さんという祈り人を持っていたSさんが、主の家に帰ろうと決心した時、その家につながる道としてこの小さな集會が用いられたことを、神様に感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のお祈りに感謝します。

スイス日本語福音キリスト教会創立20周年記念事業 マイヤー・マルチン牧師と行く聖地旅行

2014年10月12日ー10月19日



1.Tag – Sonntag, 12.10.2014

Flug mit ELAL Israel Airlines von Zürich nach Tel Aviv. Empfang am Flughafen „Ben Gurion“ durch einen Vertreter von Schechinger-Tours. Transfer zur Unterkunft nach Tel Aviv. Halbpension im Hotel „Deborah“ in Tel Aviv.

2.Tag – Montag, 13.10.2014

Fahrt nach „Cäsarea maritima“ zur Besichtigung der Ausgrabungen aus Römer-, Byzantiner- und Kreuzfahrerzeit. Weiterfahrt nach Haifa mit Panoramablick über die Hafenstadt mit „Bahai-Garten“. Weiter auf den Berg Karmel, wo einst Elia gegen die Baalspriester kämpfte. Besichtigung der Opferstätte „Muchraka“ und Blick auf Harmageddon, dem Ort des letzten Kampfes (Gog/Magog). Weiterfahrt zum Liebeswerk Zedakah Shavei Zion (je nach Möglichkeit Fahrt nach Malot und Besichtigung des Altenheims). Anschließend Fahrt an den See Genezareth. Halbpension im Kibbuz „Deganya Bet“ beim See Genezareth.



3.Tag – Dienstag, 14.10.2014

Besichtigung rund um den See Genezareth:

Besuch des Bergs der Seligpreisungen. Wanderung an den See, wie es einst Jesus mit seinen Jüngern tat. Weiter nach Tabgha mit der Brotvermehrungskirche, sowie nach Kapernaum mit der Synagogenruine und dem Haus des Petrus. Danach fakultative Möglichkeit zum „Petrusfisch“-Essen.

Weiterfahrt nach Nazareth mit Besuch von „Nazareth Village“. Anschließend Rückfahrt zur Unterkunft.

Halbpension im Kibbuz „Deganya Bet“ beim See Genezareth.

4.Tag – Mittwoch, 15.10.2014

Fahrt durch das Jordantal. Besichtigung der Taufstelle „Qasr El Yehud“ bei Jericho.

Fahrt zur Oase „Ein Gedi“ mit Wanderung zum Wasserfall. Auffahrt nach Jerusalem zur Besichtigung der Menorah

(siebenarmiger Leuchter) bei der Knesseth (israelisches Parlament). Fahrt zur Unterkunft.

Halbpension im Kibbuz-Hotel „Ramat Rachel“ in Jerusalem.

5.Tag – Donnerstag, 16.10.2014

Fahrt zum Besuch von Massada, der einstigen Festung der Zeloten im Kampf gegen die 10.römische Legion. Auf- und Abfahrt mit der modernen Drahtseilbahn, sowie Rundgang und Erklärung der Festung. Anschließend geht es zum Toten Meer mit Bademöglichkeit im Toten Meer inkl. vegetarischen Mittagessens in der Hotelanlage vom Hotel Lot. Anschließend Fahrt zur Unterkunft.

Halbpension im Kibbuz-Hotel „Ramat Rachel“ in Jerusalem.

6.Tag – Freitag, 17.10.2014

Besuch von „YAD-VASHEM“, der Gedenkstätte an den Holocaust und dem „Tal der verschollenen Gemeinden“. Anschließend Besuch auf dem jüdischen Markt „Mahanei Yehuda“. Anschließend Fahrt nach Betlehem zur Besichtigung der Geburtskirche.

Halbpension im Kibbuz-Hotel „Ramat Rachel“ in Jerusalem.

7.Tag – Samstag, 18.10.2014

Auffahrt zum Ölberg mit Panoramablick über die „goldene Stadt“ Jerusalem. Wanderung ins Kidrontal mit Besuch im Garten Gethsemane.

Danach Besichtigung der Altstadt Jerusalems mit Klagemauer, jüdisches Viertel, via Dolorosa, und Bummel über den orientalischen Basar von Jerusalem. Abschluss im Gartengrab.

Halbpension im Kibbuz-Hotel „Ramat Rachel“ in Jerusalem.

8.Tag – Sonntag, 19.10.2014

Transfer zum Flughafen „Ben Gurion“ bei Tel Aviv und Rückflug nach Zürich.

Programmänderungen durch die aktuelle, situationsbedingte Lage vorbehalten -Schechinger-Tours, Walter Schechinger, Im Kloster 33, Tel. 07054-5287, www.schechinger-tours.de